

# 第1回陸前高田市震災復興計画推進委員会

## 議 事 録

日 時 平成25年6月24日（月）

午前10時～正午

場 所 市役所3号棟2階議場

# 第1回陸前高田市震災復興計画推進委員会

## 1 開 会

【蒲生復興対策局長】おはようございます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

まことに恐れ入りますが、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いいたします。

それから、初めに配付資料の確認をさせていただきます。次第、それから委員名簿、座席表、それから意見シート、資料1としまして、陸前高田市震災復興計画推進委員会設置要綱、資料2、震災復興事業の主な取り組み経過について、資料3、陸前高田市震災復興計画主要事業ロードマップ、資料4、新しい市役所の位置に係るアンケート結果について、そのほか復興事業に係る参考資料となっております。

以上でございますが、配布になってございませんでしたら、事務局のほうにお申し入れいただきたいと思います。

それでは、ご案内の時間になりましたので、ただいまから第1回陸前高田市震災復興計画推進委員会を開催いたします。

私は、復興対策局長の蒲生でございます。司会を務めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

## 2 委嘱状交付

【蒲生復興対策局長】それでは、次第の2、委嘱状の交付を行います。

委員各位には、ご快諾いただき、誠にありがとうございます。時間の都合上、代表の方1名にお渡しし、そのほかの方につきましては、お手元にお配りしておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

それでは、大船渡市農業協同組合の理事、菊池司様に代表してお受け取りいただきますので、菊池様、前のほうにお進みいただきたいと思います。

【委嘱状交付】

## 3 市長挨拶

【蒲生復興対策局長】続きまして、戸羽太陸前高田市長からご挨拶を申し上げます。

【戸羽市長】それでは、一言ご挨拶を申し述べさせていただきますと思います。

第1回の陸前高田市震災復興計画推進委員会ということで、皆様方には大変ご

多忙の中お集まりをいただきました。心から感謝を申し上げたいと思います。

今日は、この復興計画の進捗状況についてお話をさせていただくわけですが、本当に様々な手続等々がございまして、市民の皆様方からは目に見える復興が進んでいないというお叱りをいただいてきたわけではありますが、今年度に入りまして、やっとあちらこちらで槌音が聞こえてきたというところでございます。

この間も市を挙げて、そして先生方、いろんな方々の、地域の方々のお世話をいただいて、この復興計画を推進してきたわけでございますけれども、きょうは推進委員会ということでございますので、皆様方にその状況についてご説明をし、ご意見をいただきたいと思っています。

もう一つは、今、市民の皆様方に新しい市役所の位置についてのアンケートなどをとらせていただいているところでございますが、この推進委員会のメンバーの皆様方からもご意見をいただきたいということでございます。

構成を見ていただいておりますように、陸前高田市の様々な産業でありますとか、地域でありますとか、それぞれの団体でありますとか、それぞれの分野の代表をされている方々が、この推進委員会のメンバーということでございますので、そういう意味ではいわゆる市民の皆様方の代表の方々のお集まりであるというふうに私どもも認識をいたしておりますので、どうぞ忌憚のないご意見を寄せていただきますようお願い申し上げます次第でございます。

いずれ限られた時間ではありますけれども、私どもも全力で復興に向けて今後も頑張っております。どうか皆様方のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。簡単ではございますが、冒頭のご挨拶にさせていただきたいと思います。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

#### 4 委員等紹介

【蒲生復興対策局長】続きまして、委員等紹介に移りますが、当委員会設置に当たり設置要綱を定めております。お手元に資料1として配付しておりますが、その設置要綱では、委員会の設置、所掌事項、組織等について定めております。その中で、委員の任期につきましては2年とさせていただいております。内容は、配付資料にてご確認いただくこととしまして、説明につきましては省略させていただきます。

また、まことに恐れ入りますが、委員のご紹介につきましては、ご欠席の委員、代理で出席されている委員もおられますが、進行の都合上、お手元にお配りしました委員名簿をもちまして、ご紹介にかえさせていただきます。

また、委員名簿の裏面になりますが、陸前高田市震災復興本部の本部長の戸羽太市長、副本部長の久保田崇副市長以下本部員と復興対策局事務局職員につきましても、名簿によりご紹介にかえさせていただきたいと思います。

## 5 委員長・副委員長選任

【蒲生復興対策局長】続きまして、委員長・副委員長の選任に入ります。

お手元の資料1の委員会設置要綱第5の規定により、当委員会に委員長、副委員長各1名を置くことにしまして、委員長、副委員長の選出は、委員の互選とさせていただきます。

最初に、委員長、副委員長の互選の方法について委員の皆様からご提案をいただきたいと思えます。

どなたか、ご発言等ありませんでしょうか。

それでは、ご発言がないようですので、事務局からのご提案とさせていただきます。よろしいでしょうか。

【「異議なし」の声】

【蒲生復興対策局長】それでは、事務局案であります。委員長に東京工業大学の中井裕委員、副委員長には東京大学の羽藤英二委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

【蒲生復興対策局長】それでは、ご異議がないようですので、委員長は中井委員に、副委員長は羽藤委員にお願いすることに決定いたしました。ありがとうございます。

それでは、中井委員長には、議長席にご着席をお願いいたします。

ここで、お二人からご挨拶をお願いします。

始めに、中井委員長、お願いいたします。

【中井委員長】皆様おはようございます。ただいま委員長を仰せつかりました東京工業大学、中井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

挨拶ということでございますけれども、復興計画を決める検討委員会の委員長として、復興計画決めさせていただいて1年半たちました。今回推進委員会が開催されて、1つは復興計画の進捗状況を確認するという、もう一つは、復興計画はあのような時期に決めましたので、大きな方向性を取りまとめたものだと考えております。それぞれ具体的な決定に当たっていろいろと市のほうも考え、悩むことがあろうかと思えます。そういうことに委員の皆様方の意見をまとめて発信するというのが推進委員会の役割だということに考えております。委員長は、皆さんの意見を取りまとめまして市のほうにお伝えをする交通整理の役割と思っておりますので、どうぞよろしく願いをしたいと思います。

簡単ではございますけれども、挨拶とさせていただきます。お願いします。

【蒲生復興対策局長】続きまして、羽藤副委員長からお願いいたします。

【羽藤副委員長】皆さん、こんにちは。今日で震災が起こってから837日目ということで、非常に長い時間がたって、皆さんなかなか復興が進んでいないというような感覚を持たれている方もあろうかと思えます。ただ、私もいろんな地域に行っていますが、よその地域に比べて、この陸前高田市が進んでいないということでは

決してありません。いち早く工事のほうにも着手しまして、全体としては非常に苦しい状況だとは思いますが、むしろ頑張っているということも言えるのではないかなというふうに感じています。

資料のほうを見ていまして、さまざまな復興事業のほうの取り組みのほうが進んでいるようでもあります。今日は、特に委員会の名称が復興計画の推進ということですので、でき得る限りここにおられる方々と一緒に復興事業を推進していくために前向きな意見をさまざま出していただきまして、みんなでこれからまたさらに前に向けて復興計画を進めていく上での議論ができればいいなというふうに思っています。今日は、よろしく願いいたします。

【蒲生復興対策局長】ありがとうございました。

それでは、ここからの委員会の運営は、設置要綱の規定によりまして、委員長が議長となることとなっておりますので、中井委員長、よろしく願いいたします。

## 6 報告事項

### (1) 震災復興事業の主な取り組み経過について

【中井委員長】それでは、次第により会議を進めてまいりたいと思います。

次第の5の委員長・副委員長選任までまいりました。

6、報告事項の(1)、震災復興事業の主な取り組み経過について事務局からご報告をお願いいたします。

#### 【資料説明】

【中井委員長】ただいま事務局から震災復興事業の主な取り組み経過について説明がございました。

報告事項ということでございますので、特にご質問等なければ次の議事、次の議事の中でも、このことが議論になると思いますので、とりあえず現段階ではいかがでしょうか。次に進めさせていただいてよろしいでしょうか。

#### 【「はい」の声】

## 7 議事

### (1) 陸前高田市震災復興計画の進捗状況について

### (2) 新しい市役所の位置について

### (3) その他

【中井委員長】それでは、次第の7、議事(1)の陸前高田市震災復興計画の進捗状況について、まず事務局から一括でご説明をお願いしたいと思います。

## 【資料説明】

【中井委員長】ありがとうございました。

ただいま事務局より震災復興計画の進捗状況についての説明がございました。それで、今後の意見交換の進め方でございますけれども、資料3をもう一度見ていただけますでしょうか。資料3の2ページ目に新旧対照表がございます。こちらのほうで市の主要事業を中心に昨年6月時点に取りまとめたロードマップ、これが黄色の枠がつけられているものがそれでございますけれども、それと現在のロードマップが比較できる形で示されているということでございました。

復興計画、全部で154事業ということで非常に多岐にわたります。時間の都合もございますので、全般にわたってというよりは、ロードマップの構成に従いまして、目標ごと、つまり第1、「災害に強い安全なまちづくり」、第2、「快適で魅力のある……」というような構成ごとに順次ご意見を伺ってはいかがかと思えます。そういった進め方でよろしゅうございますか。

## 【「異議なし」の声】

【中井委員長】それでは、そのように進めさせていただきます。

それから、時間の関係上、十分ご意見をいただけないことも想定されますけれども、その際はお手元に意見シートというのが、こういうものが配付をされておりますので、そちらにお書きいただきまして、後で事務局にご提出いただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、主要事業ロードマップの第1、「災害に強い安全なまちづくり」から進めてまいりたいと思います。ここでは、只出漁港海岸の防潮堤整備事業ほか7事業、8事業でしょうか、が掲載されてございますけれども、それぞれの事業あるいは「災害に強い安全なまちづくり」ということで関連する項目につきまして、委員の皆さんからご発言ございましたらお願いしたいと思います。いかがでございましょうか。

ここは主に、主要事業ロードマップには、防潮堤の整備事業ということで6カ所、それから消防庁舎等建設事業、高田西地区。高田西地区というのは市役所の向かいの場所ですけれども、その話等でございます。参考資料でいきますと、参考資料の2が西地区の整備概要、それから漁港海岸というのがどこかにありましたね。参考資料の12でしょうか、これが海岸保全施設（防潮堤）の復旧事業等ということになります。いかがでございますか。

事務局のほうから、何か補足されるようなことはございますか。

【事務局】事務局のほうからは、特にございません。

【中井委員長】そうですか、はい。

いかがでしょうか。もしちょっとなかなかということでございましたら、先に進みながら、また後に戻らせていただくということにさせていただければと思

ます。

それでは、次に第2、「快適で魅力のあるまちづくり」でありますけれども、ここは高田、今泉の復興土地区画整理事業、それから防災集団移転促進事業がこの第2、「快適で魅力のあるまちづくり」というところに入るものでございます。参考資料的には、ここは結構たくさんありましたよね。参考資料でいきますと、3、それから4、5、6といったあたりでしょうか。そのあたりを中心にご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

どなたか、ご意見ございますか。

それでは、ちょっと私のほうから確認という意味ですけれども、防災集団移転促進事業については、スケジュールの大枠のところは大体わかりましたけれども、区画整理のほう、今後のスケジュール予定等をちょっともう少し詳しくご説明いただければと思います。

**【山田都市計画課長】** それでは、都市計画課長から、区画整理事業の当面の予定につきまして、概略ご説明をしたいと思います。

まず、現在の工事等の進捗状況につきましては、高田地区におきましては、高田の高台2というところ、一中のちょうど北側に隣接する場所で造成工事が始まっております。それから、今泉地区の先行地区につきましては、ちょうど気仙大橋を渡りまして正面に見える山林の伐採が進んでおりまして、こちらは今年中に土砂搬出のための大がかりなベルトコンベヤーを、気仙川をまたいで設置をするということで、現在それに向けた工事が進んでいるという状況でございます。

今後のスケジュールでございますけれども、先ほども説明の中で、本年秋の全体地区の事業認可を目指しておるということですが、これに向けて今、県、国のほうと調整を行っておりまして、事業認可の前に、夏頃、恐らく8月末頃かと思いますが、住民説明会を予定いたしまして、その後縦覧等々を行いまして、秋の県の知事事業認可を目指すということでございます。

工程表にも示しておりますが、高田地区、早いところで平成27年夏からの住宅の再建、今泉地区、早いところで平成28年夏からの住宅再建を目指しているという予定でございます。

**【中井委員長】** はい、ありがとうございます。

ということは、秋ごろに大体事業認可なので、高田ですと、平成27年が住宅再建可能ということで、25年の年末ぐらいから26年にかけて換地ですとか、あるいは仮換地指定といったようなところをお進めになるという、そういう理解でよろしいでしょうか。

**【山田都市計画課長】** 換地につきましては、それぞれ27年、28年の住宅再建の直前くらいを目指しますが、その前にいわゆる換地の概要等ができました段階で、またご説明をして、ということの積み重ねで進んで参りたいというふうに考えております。

**【中井委員長】** ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。どなたもご発言ございませんか。

では、羽藤副委員長、お願いします。

【羽藤副委員長】 ちょっと順番に流してきていて、「災害に強い安全なまちづくり」のところにちょっと戻るのですけれども、参考資料の12のところを見ますと、これ海岸保全の災害復旧事業箇所図ですけれども、これ防潮堤の高さがいろいろ書かれておりまして、参考資料の12のところですよ。これ、高さが相当いろんな海岸で違いが出ているというのが、何かよその地域と比べると大きな特徴かなというふうに思います。これをどう感じられるかというのは、結構人それぞれというところもあるかと思うのですが、逆に言うと、その海岸の特徴等によって、利用のされ方によって、非常にご努力されて高さを調整しているのかなというところも感じたりもするわけですが、これ事務局さんのほうで、もしおわかりでしたらあれですけれども、防潮堤の高さについては、やっぱり海岸それぞれでかなり議論しながら調整していつているというような過程があるのかどうかについて、ちょっとお聞かせいただけますでしょうか。

【中井委員長】 事務局、お願いいたします。

【平水産課長】 水産課長よりご説明いたします。

この防潮堤の高さにつきましては、あくまでもレベル1という津波の最大高に対して、各地区に入りまして、地区の方々のご同意を持った高さでございます。その高さにつきましては、あくまで平均、内湾でございますと、最高高とすれば12.5メートルという高さでございましたが、あくまで背後の高台のほうに、例えば住宅があるというところ、それから今後の復旧整備の速さというところで、各地区ごとに漁業者の方々、それから住民の方々の意向を踏まえた高さで決定しております。

以上でございます。

【羽藤副委員長】 そうですね、これかなりこの陸前高田市の特徴だと思いますので、防潮堤の、特に漁港に関しては議論されてやられてよろしいのではないかなという感じがしました。ありがとうございます。

【中井委員長】 ちょっと私から補足的な質問ですけれども、この漁業の防潮堤の場所というのは、もとの場所ではないのですか。

【平水産課長】 水産課長からご説明いたします。

基本的に今の防潮堤のところは、同じ場所ということで考えております。ただし、今、検討している段階におきましては、防潮堤の背後に生活道そのものがございまして、あくまでも道路をなるべく生かすような配置計画も考えております。

【中井委員長】 わかりました。

では、委員の方、どうぞ。

【小野寺彦宏委員】 「快適で魅力あるまちづくり」の1番目ですが、先ほど高台移転の進捗状況の話がありましたけれども、当初個別の面談のときにも、27年夏から個人



の家が建てられるよということでした。それで、実は心配するのが、27年の夏に一斉に高台移転がスタートした場合に、例えば大工さんがいないとか、今でもセメントや資材が足りないとかということが言われていますから、27年夏、これから2年半ぐらい、そしてそれからスタートして2年、3年、いや、何年かかるかわからないという不安を皆持っております。それで、新聞報道によりますと、ほかの例えば大槌とか何かでも高台移転を自分で決めておきながら、2年後か、3年後かということで、とても待てないということで、内陸とか県外に移転するという人が増えています。そういう心配があるのですけれども、その辺はどのようなのでしょうか。

【中井委員長】事務局のほうでお答えできますでしょうか。

【山田都市計画課長】都市計画課長からお答え申し上げます。

高台への住宅建設が27年からというのは、これは早いところということまでございまして、順次高台の移転予定地の造成については、それぞれ造成に認可後に入っていきわけですけれども、各地区それぞれの造成完了というのは、まだ申し訳ないのですが、お示しをしておらない段階でございまして、順次それが計画固まり次第お示しをしながら、皆様の住宅再建の段取り等をお考えいただくように私どもも努力してまいりたいというふうに考えております。

【中井委員長】小野田委員、どうぞ。

【小野田泰明委員】東北大学の小野田でございます。

私どもも、先ほど羽藤先生からもお話がありましたけれども、ほかの自治体でも支援をしております、先週の土曜日、ちょうど岩沼市で災害復興地域、防災集団移転地域と災害復興公営住宅の住民説明会を行ってまいりました。岩沼市は、幸いにして陸前高田市に比べて被害が少のうございまして、内陸にいち早く移転して、20ヘクタールの土地にみんな住むということで、盤の造成に時間がそんなにかかりませんので、盤の造成は今年中に終えて来年から立ち上がるということで、今、委員からご指摘があったように、本当に家建てられるのかと、みんな一斉にそこに、家を建てにかかりますから、公営住宅も自力再建の方も一斉にそこに建てられるので、本当に大丈夫かという話になっております。それにつきましては、皆様方、個別に住宅再建をおやりになると本当に混乱しますので、ある程度地区ごとにまとめて、プロジェクトマネジャーと我々呼んでおりますけれども、自力再建される方をコーディネートする方を立てて、その方と、あと市の災害復興公営住宅がありますので、災害復興公営住宅の工事管理者と共同しながら、生コンをいつ入れたらいいとか、これとこれを一緒にしたほうがいいとかというふうに調整しようということをしてJIA、日本建築家協会ですか、建築家協会さんと地元の建築士会さんと私ども建築の学識と、あと自治体さんのほうで共同してやっていこうということ始めております。

陸前高田市が建築の着手にどうしても時間がかかるのは、別に市が悪いわけではありませんが、もう壊滅的な、非常に地理的な条件でどうしてもこうなっ

まうので、それでも非常に早く進んでいるほうだと思いますけれども、そういうことでありますので、いろいろ岩沼市とか仙台市で幾つか試して実験して、多分岩沼市が一番最初なので、ちょっといろんな問題もあるかと思いますが、そういうものを全て学習といいますか、把握された上で、一番いいやり方で多分持っていけるのではないかなというふうに思っております。

それから、石巻市なんかは来年がピークで、岩沼市は多分その先で、ぎりぎりピーク外せるのですが、石巻市のピークだと、本当に住宅をつくれるかどうか、大工さんの手配が本当に大変なのですが、逆に陸前高田市さんは若干そのピークから後ろにシフトしますので、幸いなことに、そこら辺についても、ノウハウの面についても、建設のピークについても、ある程度は見通しができるのではないかなというふうに思っております。しかしながら、景気の動向と、あと消費税、これは避けられませんので、このあたりのリスクがどのように出てくるかというあたりは慎重にウオッチする必要があるのではないかなというふうに考えております。

【中井委員長】ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

【伊東 孝委員】商工会の伊東でございますけれども、「快適で魅力のあるまちづくり」ということで、土地区画整理事業における工事進捗に合わせ、順次住宅建設というのが平成27年の夏ごろからということのようでございますけれども、参考資料5にある中心市街地の中の商業施設関係、店舗、それぞれの商業者の方の店舗だとか、そういった商業施設等々については、これ工事進捗に合わせ順次住宅建設、平成27年夏ごろというのと同じような考え方なのか、それとも商業施設等々についてはもう少し先行でとか、何かそういったのはあるのかどうかというところをちょっとお聞きしたいのですけれども。

【中井委員長】具体的な工事の手順だとか、それから先ほどまで高台の話が中心でしたけれども、かさ上げ地のほうの建築のスケジュール等も含めてちょっとご説明いただければと思います。

【山田都市計画課長】それでは、都市計画課長から、かさ上げ地のほうの造成見込みということで、特に中心市街地のお話でございました。かさ上げも面積大変広いわけですが、市としてはできるだけ中心市街地を先行してかさ上げを進めたいということを考えておまして、そのために今検討案という形ではございますが、商工会さん、あるいは先生方のお知恵を借りながら、たたき台をつくっているところでございます。

その手法等に関しても、現在検討中というような段階でございまして、ちょっと造成時期等、今の時点で何年度というところまでは申し上げかねますけれども、いずれ一斉のかさ上げではなくて、中心市街地を先行してかさ上げ造成をしまして、ここから中心市街地の機能を発展させ、周辺の住宅地等々へ広げていくとい

う、まず真ん中を先にとという考え方で進めてまいりたいと考えております。

【中井委員長】ほかはいかがでしょうか。

それでは、ちょっと私からも1つだけ、防災集団移転促進事業、全地区でもう認可がとれてということでございまして、どの資料でしたか、移転した後の話についてどういうふうになるのか。もう移転跡地の買い上げ等が進み始めているようですけれども、その買い上げがこれからどんどんそれぞれの地区で進んでいくのだと思いますけれども、その後、どういうふうになるのか、そのあたり何か補足していただければと思います。

【蒲生復興対策局長】復興対策局長からお答えいたします。

既に長部地区のほうで、皆さんのお手元の資料2にありますように、買い上げを行っております。移転元については、全部で2,300筆ほど買い上げてほしいというご希望がございまして、今年度内に全地区一応一巡はしたいなというふうに考えております。その後については、いずれ移転元の買い取り価格、これについては住宅再建の一助にしてほしいということで進めているところですが、住宅再建についてはいろんな補助制度もございまして、その補助制度の活用をしながら、各人が住宅再建をすると。住宅再建の土地については、自分でお買いになることもできますし、あるいは借地で建てることも可能だということで、これについては37の協議会が設立してございますから、協議会の方々と相談をする、あるいはそれぞれ区画が違いますけれども、その区画割ということも、市でAさんはここ、Bさんはここというわけにいきませんので、協議会の中でいろいろ相談されて進めていくと、そういう段取りで考えているところでございます。

【中井委員長】上がった後の跡地のほうはどうですかということだったのですが、そちらはどうですか。

【蒲生復興対策局長】移転跡地については、今年度から土地利用計画調査を実施することにしてございます。それで、実際には移転元の買い取り後に基本的には進めるのがより最短であるというふうに考えてございまして、今、長部地区のほうで先行して早く進んでございますので、長部地区のほうから進めていきたいと。

それから、あと先ほど水産課長のほうからもご説明ありましたが、防潮堤の位置が決まらなると、なかなか次の道路の配置、それから農地の災害復旧等々、そういったものを踏まえて利用計画を建てるのがベストではないかなというふうに考えてございますので、それらの事業調整をしながら進めてまいりたいと、そのように考えております。

【中井委員長】ほかにはいかがでしょうか。

それでは、第2の「快適で魅力のあるまちづくり」は、この程度にさせていただきまして、続きまして、第3、「市民の暮らしが安定したまちづくり」でございまして。ここは、災害復興公営住宅整備事業で、スケジュール表を見ますと、下和野が進んでいるという状況でございましてけれども、ほか下水道、保育所等、ここ

はかなり事業がございまして、あと小中学校がございましてね。21事業が掲載されております。ここの整備等についてご質問やご意見等をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

特にございませんか。

はい、鈴木委員、どうぞ。

【鈴木善久委員】高田松原を守る会の鈴木です。

「市民の暮らしが安定したまちづくり」、これからどのような事業を進めようとしているか、その計画はこれでわかりますが、ただここに書いていないことで大事なことがあると思います。それは、市民の暮らしが安定したまちづくりをするためには、やっぱり市民が安心して働く場所、これがどんどん増えないと、ほかへ転居された方たちが、また陸前高田市戻ってくるというのがなかなか大変なことだと思えます。それで、働く場所が陸前高田にこれからたくさんできて、そしてそこで市民が働きながら、そして暮らしが安定していくと、そのようなところが何か抜けているような感じがします。それで、働く場所が本当に津波でなくなってしまったような状態、そのようなところを、働く場所を、これからこのようにしてどんどんできるようにやっていく、そして陸前高田市から離れていった方たちが再び陸前高田市に戻ってこられるようにすると、その辺の計画、それがなかなか見えないのです。その辺をどのように考えられているか、それをお聞きしたいと思います。

【中井委員長】今のお話、第4の「活力あふれるまちづくり」というところとも関係すると思いますが、雇用の促進関係について、ここで答えいただければと思います。いかがですか。

事務局、お願いします。

【菊池企画部長】それでは、企画部長から答え申し上げます。

震災以降、職場の関係、それから住居の関係等、市外に転出されている方々がおるわけでございます。就業の場の確保については、やはり一番大きな課題だと思っております。第1次産業についてですが、水産業についてはさまざま養殖等の施設整備等、災害復旧工事が進んでおります。それから、農業等においても農地の災害復旧工事という形で、今後整備がされていけば、ある程度の就農の部分が出てくるのかなと。

それから、商工業の関係でございますけれども、現在商工業者は市街地がこのような形で被災しておりますので、仮設店舗、仮設事業所という形で運営してございます。私たちとすれば、早急に中心市街地の整備をしながら雇用の場を確保したいというわけですが、いずれ市街地整備が今後もまだ時間がかかるということでございます。しかしながら、できるだけ速やかな形での復旧をしていきたいと思っております。ただ、その中にありましても、例えば長部地区におきましては、水産加工団地という形でさまざまな事業所が建設されておまして、今後雇用も見込んでおるところでございます。そのほかに、ワタミタクショクさんのコール

センターや、グランパさんもできております。いずれ一気にはできませんけれども、さまざまな分野で市としても取り組みを強めてまいりたいと思っております。

【中井委員長】ほかにはいかがでしょうか。

今雇用の話もございましたので、第4の「活力あふれるまちづくり」、ここは営農拠点施設整備事業等、あと漁港関係、水産業関係、道の駅等がございますけれども、ここも含めてご質問、ご意見いただければと思います。いかがでしょう。

では、羽藤先生。

【羽藤副委員長】ちょっと意見も出にくいのかなと思いますので、1点だけ。

これ、全体的に、並べてみますと、やっぱり事業ということでもかなりかたい書き方でもありますし、あとそれから実際に事業ということですので、非常にやっぱり手堅くちゃんと進めていく必要があるということではありますと、住民参加みたいなこと、なかなか難しいと思うのですが、とはいえ、例えば広田、小友、米崎の統合小中学校というあたりですと、多分住民参加というような形、ワークショップ等も導入されているというふうに聞いていますが、こういった事業でのそういうものの効果みたいなところというのはどういったものがあるのかみたいなこと、もしおわかりでしたら、少しお聞かせいただければと思います。

【中井委員長】「市民の暮らしが安定したまちづくり」のところですか。

【羽藤副委員長】はい、そこで市民の声を事業の中に取り入れている効果みたいな話ですね。

【中井委員長】どこにお答えいただければいいのでしょうか。

【山田教育長】それでは、教育長からお答えいたします。

羽藤先生ご指摘のとおり、東中学校の再建に当たりますと、統合中学校になりますので、設計業者がこれまで数回にわたって地元の3町のコミュニティの方々、そしてまた学校関係者、そして新しい校舎で学ぶことはできないのだけれども、中学生に、もしあなたたちがこの新しい校舎で学びたいとすればどういう校舎であってほしいかというようなことを、これまでワークショップを数回にわたって開催しております。その都度さまざまな意見が出てきておりますので、そういう意見を取り入れて、できるだけ設計のほうに生かすような形でやっております、また8月に開催される予定でございます。非常に地域の方々、そしてまた生徒さんたち、そのワークショップに意欲的に参加していただいております、地域の方々のお気持ちも、自分たちでつくる新しい学校だというふうな意識が高まって、非常にいい形で今推移しております。参考までということで。

【中井委員長】ここに出ているのは、やっぱり基本的には基盤整備型というのか、基盤整備事業が中心なので、ここはどうしても行政がかなり主体的にやらなければいけないところがありますけれども、その先に文化会館にしる、それから漁港にしる、それから学校にしる、使う人、もちろん住宅の再建もそうですけれども、使う人をどうそこでうまく巻き込んでいくかということがポイントだと思いますので、この事業のもう少し矢印の先の部分にはかなりそういうことが入ってくるのかな

というふうには思っております。

ほかには、いかがでございますか。

はい、小野田先生、どうぞ。

【小野田泰明委員】「市民の暮らしが安定したまちづくり」の災害復興公営住宅に関してですが、先ほども申しあげましたように、陸前高田市、非常に大規模に津波に洗われていますので、どうしても防災集団移転事業というのは、土盛りをするにしても山を切り開くにしても非常に時間がかかると。しかしながら、仮設等にお住まいで高齢の方、またさまざまな苦勞を持っておられる方を早くちゃんとした住宅に入れれないといけないというあたりで、陸前高田市は防集の盤のところ災害復興公営住宅を、参考資料の10をご覧くださいとおわかりになりますけれども、防集の盤にそのままのせるのではなくて、津波が来ないぎりぎりのところにちょっと独立してまとめて災害復興公営住宅を建てることによって早く、またその後のケアについてもうまくいくように整理はされていると。非常に工夫はされているというふうに思うのですが、一方でほかの地域でも、災害復興公営住宅を建てるのと同時に、そこにどういうふうに福祉サービスを提供できるのかというあたりを、これは阪神でも非常に急いでつくって建てて、そこにまずお年寄り優先だということでお年寄りをかき集めたら、そうしたら非常に孤独死とか福祉のサービスが行き届かなくてなかなか大変だったというような教訓もございまして、やはり災害復興公営住宅を建てるのと同時にソフトのほうの整備というものも多分お考えになっているというふうに思うのですが、そのあたり、もしここでご説明できるようなことがありましたら、そのハードとソフトの連携について、災害復興公営住宅について、何かありましたらと思います。

【中井委員長】これは、公営住宅のほうからいきますか、それとも福祉のほうでいきますか。

では、公営住宅のほうから。

【須賀建設部長】建設部長からご説明をさせていただきたいと思います。

皆様には参考資料の10のほうを見ていただければなというふうに思っておりますが、今ご質問のありました災害公営住宅の建設とあわせてのソフト面的な話ということ、福祉施策といったようなことも含めての建設というお話もございましたけれども、今現在、市におきましては、下欄のほうに書いておりますが、市内12団地で1,000戸ほどを整備したいということで、そのうち県が6団地700戸、市が6団地300戸を建設するというような計画でございますが、実際建設はこのようにするわけですが、その後の管理という部分では、これが逆転しまして、市がその7割方を管理すると。県が残りの300戸程度を管理するというようなことで、これまでその建設に当たりまして、今後の建設においても県と調整しながら、さまざまな建設内容についての意見交換をさせていただいて、取り組んでいるというところでございまして、若干長くなりますけれども、今実際の動きをお話し申し上げれば、おおむね1,000戸のうち400戸

を越える住宅が26年度にはほぼ完成し、入居もでき得るのではないのかなと、今、そんなスピード感覚で進んでいるということを事前に皆さんにもご報告をしておきたいなというふうに考えております。

それから、先ほど先生のほうからお話がありましたソフト面、福祉施策についてでございますけれども、今回の住宅建設に当たっても、一部市営住宅等におきましては、1階部分の利用というものをさまざま検討し、また住宅としてただ単に住むだけではなくて、住みよい住宅ということも検討しているところでございまして、福祉の支援センターの中心的なそういう役目を担う施設の入居、配置といったようなことも含めて、特に障害を持つ方々等々、それから高齢者の方々に住みよい住宅提供をしていきたいなというふうに考えているところでございます。

【中井委員長】 それでは、そちら。

【菅野民生部長】 民生部長の菅野でございます。災害公営住宅のその後のソフト面の関連でございます。今、建設部長がお話ししたように、災害公営住宅の整備に当たってのいろんな配慮とかそういった部分については、市の内部の関係ですが、建設部、それから民生部門で、とりわけ下和野の災害公営住宅について市の高齢者の担当をする地域包括支援センターの職員、それから外部からは障がい者団体の方や、リハビリを進めている地域の方とか、そういった方々を一堂に会して意見交換をしたところでございます。設計に関しての配慮はもともとされているわけですが、やはり実際に生の声を利用される方々からお話を伺いたいということで考えております。

いずれ公営住宅ができますと、若い方でも、中高年の方でも、長く住むということになれば、ずっと高齢化していくわけですから、そういった方々も住みよい利用しやすい住宅をつくっていきたくて考えているわけでございます。

それから、ソフト面のもう一つは、医療福祉、それから介護、児童も含めてですが、全体に人にやさしいまちづくりという中では災害公営住宅も含めて市全体として支援を要するとか、介護を要する方々を考えていかなければいけない。そういった意味では、今、民生部の健康推進課が事務局になって進めているのですが、保健、福祉、医療関係の未来図会議というものを行っています。これは、外部の方々も含めて、NPOの人とか、いろんな支援している方々も含めて、いろんな形でご意見をいただいて、将来的な、まさに高田の未来図、保健医療関係、福祉の未来図を作りながら、全体的に心地よく住むためにはどうしたらいいのかということを、今、様々な形で意見交換をしながら進めているところでございます。

【中井委員長】 ありがとうございます。

下和野の公営住宅というのは、多分かさ上げ市街地の中では最も早くでき上がるものの一つなので、そこで何かモデル居住的なものができるのかなり他への、公営住宅に限らず、高田での暮らし方、新しい暮らし方のようなものをモデル的

に出していただければと、後ろへの効果も大きいのではないかなと思います。

ほかはいかがでございますか。

それでは、次といたしますか、残りは第5、「環境にやさしいまちづくり」、これは1つしかございませんし、第6、「協働で築くまちづくり」、ここはコミュニティ施設整備事業ほか2事業でございます。このあたりまとめて、あるいはもとに戻っていただいても構いませんけれども、ご意見やご質問等ございましたらお願いをしたいと思います。

はい、どうぞ。

**【小野寺彦宏委員】** 老人クラブなのですが、市のコミュニティホールの進捗状況、例えば当初26年度中に使えるということでしたけれども、その辺がもしわかれば。というのは、老人クラブはまさに弱者集団であります。仮設住宅にいて、閉じこもりとか、そういうふうな状況に陥る人が多いということで、何とかしようということで、今いろんな試みをやっています。一番のネックは集まる場所がないと、もともとあったふれあいセンターがなくなって、いろんな趣味の活動を4つ、5つの場所を借りながら、ロータリークラブさんなんかの施設なども借りながらやっているのですが、何せ交通機関がなくて、お年寄りでほとんど女の人です。車の運転はできない、どうして参加したらいいか。でも当初予定したよりは、皆さん大変参加してくれているのです。待っているのは、コミュニティホールがいつできるのかという、コミュニティホールができるまでみんな元気で命つないでほしいなと思っているので、いつごろから利用できるのかというのがわかればお願いしたいと思います。

**【中井委員長】** 事務局お願いします。

**【菊池企画部長】** 企画部長からお答え申し上げます。

参考資料の2、高田西地区整備概要という形で資料が添付されてございます。陸前高田市の場合は、市民会館、中央公民館、それからふれあいセンター等がなくなりまして、集まる場所がないということが一番大きな課題でございます。そういうこともありまして、市とすれば、シンガポール赤十字からの支援を受けながら、早く集会施設をつくろうという形で計画してきたところでございます。

従来のふれあいセンターは、大体2,100平方メートルでございましたけれども、今回計画しているコミュニティホールは、大体2,700平方メートルという形でございます。現在、高田西地区の造成工事をやっておりますけれども、どうしても土砂の量が多いという形で、コミュニティホールの建設予定地の土砂搬出が9月いっぱいぐらいはかかるのではないかとということでございます。そういうことで、早ければ10月ごろから着工で、工期10カ月ほど見込まれるというようなこともございますので、来年の秋には何とか利用できるような形になればなと思っていますところでございます。

**【中井委員長】** コミュニティホールは、ここの市役所の向かいのところですね、高田西地区にできると。来年の秋ごろという、そういう説明でした。



ほかは、いかがでしょう。

はい、どうぞ。

【菅野秀一郎委員】商工会青年部の菅野と申します。

ちょっと商工会青年部とは全く関係ない質問なのですが、推進委員の中に消防団関係機関の方がおられないようなので、私が代わりに質問したいのですが、

全体的に見まして、応急対策というのが漁港、防潮堤、下水とかにあるのですが、消防団屯所建設事業の基盤整備の前に、市の財産としてポンプ車とか積載車とかが配備されておるのですが、屯所が被災しておりまして、格納庫及び例えばバッテリーの充電施設みたいなものがない状態でポンプ車を配備されている状態なので、できれば応急対策としてそういう施設を考えられているかどうかをちょっと質問したいのですが、

【中井委員長】これは、どちらでお答えいただけますか。

ではお願いいたします。

【岩崎消防長】消防長からお答えいたします。

消防団の各屯所につきましては、鋭意新築もしくは仮設等の整備を進めているところでございます。屯所の用地につきましても、いろいろ手配はしておりますが、いろいろな事情でなかなか土地を提供していただくというのがかなり難しいということで、現在仮設のテント並びに倉庫になるようなテントを手配して順次対応するというふうにしていますし、お話のあった充電のための電源につきましても、小型動力ポンプ配備の部には100ボルトの電源も配備するという形で対応することにしております。

【中井委員長】対応方よろしくをお願いいたします。

ほか、いかがでしょう。

ちょっと環境ということで、復興計画のときには被災農地等を活用した太陽光発電所誘致推進ですとか、再生可能エネルギーみたいな話があったのですが、そのあたり、何か取り組みございましたらお願いしたいと思いますが、いかがですか。

【菊池企画部長】企画部長からご説明申し上げます。

復興計画の中では、被災した一部、それぞれ区画整理事業地等で盛り土しない部分について太陽光発電所の誘致を掲げてきたところでございます。この太陽光発電所の設置についてでございますが、農地の災害復旧としての検討が現在されております。それから、未利用地の状況や土地の集積などの課題もあるところでございます。そしてもう一つ、低地部への誘致については、今後高台移転に伴う山林の造成工事があるわけでございますが、大量の土砂が発生するために土砂の仮置き場が必要になっております。例えば高田沖の農地でございますけれども、今泉地区等のかさ上げ地の造成工事に伴って大量土砂が発生するために、当面、二、三年は仮置き場として使用しなければならないというような問題もござい

して、この誘致については現在ストップしている状況でございます。

それから、メガソーラーの設置につきましては、市が事業主体ということではございませんので、民間の企業をお願いしたいというところでございますが、現在防潮堤のない段階では、設備設置のための保険料が相当な金額になるという形で、陸前高田市以外の沿岸部の市町村においても、なかなかそういう立地のほうを、企業のほうが躊躇しているような状況でもございます。ただ、気仙2市1町で気仙広域環境未来都市計画という形で今計画をしておりますが、大船渡市においては五葉山のほうに、高台ということですが、メガソーラーの設置に着手したというところでございます。本市の太陽光についての取り組みであります。当面はメガソーラーの設置、なかなか厳しいものがありますので、公共施設への太陽光発電設備の設置をしたいという形で、スポーツドーム、コミュニティホール、消防施設、それから各地区コミュニティセンター等の整備を今現在計画しているところでございます。

【中井委員長】ありがとうございました。

ほかに、全般にわたりましてご意見、ご質問等ございますでしょうか。

少し事業が中心ということで、なかなか意見も出しにくいのかなというところもございましたけれども、おおむねといいますか、ここに示されている事業については、皆さん進捗状況をご確認いただけたのかなというように思います。この矢印が先のほうに行けば行くほどいろいろなことが出てきますので、まさに建物のところに行きましたら、建物を使う人を巻き込みながら、どう整備を進めていくかといったようなことも重要になってまいりますので、ロードマップにつきましては、意見交換はこれぐらいにさせていただきますけれども、またこういう意見交換の機会も持っていただけるものと思っておりますので、引き続き震災復興計画の進捗については、この委員会で確認をしてみたいというように思います。

本日出ましたご意見につきましても、事務局で整理をされて、今後の復興事業の取り組みや情報発信等に反映していただけるようお願いをしたいと思います。

それでは、もう一つ議題がございます。議事の(2)、新しい市役所の位置についてでございます。当委員会の開催に当たり、事前にアンケート調査ということで、委員の皆様にもアンケートの調査をお願いしたところでございました。そのほか、市民対象のアンケート、市役所職員対象のアンケート等の結果がまとめられているようでございますので、まずはそちらの説明からお願いをしたいと思います。よろしくお願いたします。

#### 【資料説明】

【中井委員長】ありがとうございました。ただいま新しい市役所の位置に係るアンケート結果についてご説明をいただきました。

このアンケートについては、先ほど区画整理事業のご説明がございましたけれども、今年の秋ごろ区画整理事業を事業認可という手続に持っていきたいと。事業認可をするためには、大まかな土地利用というものを決めないと事業認可というのとれないものですから、区画整理事業の中に市役所を入れるか入れないかということを今の段階で決めないといけないということで、今すぐ建てるとかそういうことではなくて、区画整理事業の中に市役所を入れるか入れないかを決めないと区画整理の事業認可がうまくいかないということで、こういったアンケートを行ったということでございます。

市民の方々、あるいは市職員のご意見は現市役所庁舎のほうが多いと。それから、委員の皆さんからのアンケートは、おおむね拮抗しているのかなというような感じでございます。

それから、過日、市議会からは住民の意見を酌みながら適切な位置を決定されたい旨の申し入れがあったというようにも聞いております。これは、安全か利便性かとか、それから浸水区域、浸水区域外、かさ上げか、高台かということで意見が分かれるところでございますが、既にご回答をいただいている委員の皆さんもおりますし、アンケートは一応匿名というか、無記名だったのですけれども、新しい市役所の位置に対して推進委員の皆さんでご意見がございましたらご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私の説明で、さっきのは合っていますよね、事業認可との関係の話は。事業認可の段階ではどこまで細かく決めないといけないか、ちょっと説明していただけますか。

**【山田都市計画課長】** それでは、都市計画課長から補足でご説明をいたしますが、本日参考資料の3で土地利用の計画案というものをお示ししております。これは、6月1日現在ということですが、これは昨年の秋に1度、さらに前のたたき台ということでお示しをしておりますし、本日6月1日現在ということですが、公共施設がどこになるかということにつきまして、この中に位置決めをいたすということが事業認可に向けて必要な手続となっておりますので、市役所の位置についてこの時期に絞り込みをすると、区画整理の事業の区域に入れるか入れないかということについて絞り込みをいたすという、先ほど先生ご説明のとおりの手続きでございます。

**【中井委員長】** 具体的には、公共施設の位置というのは示さなければいけないという状況がございまして、したがって市役所は当然公共施設でございますので、その場所をもし入れるのであれば示さなければいけないという、そういう状況にあるということでございます。

場所について、ご意見いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

**【鈴木善久委員】** 復興計画推進委員に対するアンケートで、私は3案の高田町鳴石地区、現市庁舎というところで回答しました。

あと、これに関わっての質問ですけれども、今あるこの建物の耐用年数というのはどのくらいになるのだろうか。まず、仮設として建てたと思うのですが、この仮設の市役所というのは、これから何十年もつのか、そのあたりについて質問したいと思います。

【中井委員長】お願いいたします。

【熊谷財政課長】財政課長からお答え申し上げます。

建設当時、それにつきましては業者さんのほうとも話をしました。5年という線、それから実質10年ぐらいまでもつのではないかというふうなお話は聞いております。

【中井委員長】10年ということでしょうか、今のお答えですと。それぐらいは、この庁舎は使えるということのようです。

ほかはどうでしょうか。どなたもございませんか。

はい、どうぞ。

【齊藤篤志委員】私は、今回初めて委員として出席させていただきました。このアンケートの中には入っておりません。しかし、一般の住民として私が入れたのは第3案です。現市役所庁舎ということにしました。市役所職員の方々も74.9%高台が望ましいと。それは、もう今回の震災で、肌で感じていると。職員が亡くなり、そして心臓であるべき市庁舎が機能を果たすのに大変ご苦労なさったろうと思うのです。こういった点からすると、大船渡市役所、私はよく会議に行くのですけれども、不便だなと思ったのですが、あれが今まさに一等地で、心臓部がそのまま生きていますから、すぐに対応ができるということなわけです。私は、このアンケートの結果を見れば、ああ、住民も賢明な考え方だなと。二度とこういうふうな災害にならないようにと、安心してそれぞれの職員も働けると。それから、何か起きたときには、すぐに住民に対して支援ができるということで、私はこれを選んでいるのでありまして、第3のところ、いずれ高台が望ましいと。そこは、商店街がなかろうが、山の中にポツッとあろうが、大船渡はそれなのですよね。商店街の中にあるわけではない。しかし、今回は大きな機能を果たしたであろうというふうに考えるので、私は今回初めて委員になりましたので、このアンケートを見ながら、また自分の考えで今意見を述べたわけでございます。

以上です。

【中井委員長】ありがとうございます。

ほかにはご意見いかがでしょうか。

はい。

【村上誠治委員】下矢作コミセンの村上です。私も今度のアンケートを出しました。それで、無記名ですので、私が書いたの、多分「3案に付帯するもの」ということのぼつの2番なのですけれども、市役所の機能が果たせる場所に建てるべきであり、まず高台ということに、ちょっと先のほうには「半永久的」という言葉を書いて出したつもりです。やはり永久的に何かあっても対応できるという建物であって

ほしいという願いです。

以上です。

【中井委員長】ありがとうございます。

いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

【熊谷光人委員】みんな大分3案ですが、私は1案に書きました。というのは、広く土地がとれるということで、大分駐車や何かもできるのではないかと、そういうことを含めて取りましたし、高台、高台といっても、九州なんかは山のほうの、私の言葉で言えば、山津波が大変なので、むしろ山から海岸のほうに下がっているというのを聞けば、やっぱり1案の本丸公園あたりの高台でも十分なのではないかなと、広く土地がとれるということで。本丸公園は、高田町、前は中心地みたいな格好であったということで、私は1案に投票しましたということです。

以上です。

【中井委員長】ありがとうございます。

ほかの委員の皆さん、いかがですか。

はい、どうぞ。

【伊東 孝委員】商工会の伊東でございますけれども、皆さんご承知のとおり、商工会としては中心市街地ということで、市のほうにご提案も申し上げておりましたけれども、いろいろアンケートをとってみると、半々というのでしょうか、やはり本丸公園と高田小学校のところと現庁舎というのが大体同じぐらいというようなアンケート結果のようでございますので、これは最終的には市のほうで決めることなので何とも言えないところではありますけれども、この回収が約半分、案内を出した人の半分ということで、半分の方々が回答なかったということなのですけれども、その辺のところというのはどうなのですか。関心がなかったのか、それともどこでもいいよという考えだったのか、何かその辺のところは私としては非常に気になる場所なのですかけれども、もしその辺、何かつかんでいるようなことがあれば教えていただきたいなと思うのですけれども。

【中井委員長】これは、なかなか難しいそうですけれども、いかがですか。

市長、お願いします。

【戸羽市長】議会でもそのようなご指摘もいただいたところでございます。確かに期間が少し短かったという反省点はありますが、ただ私が、市民の皆さんと話をしている中では、基本的にはお任せをしますという方が非常に多いようなふうに私自身はっております。全世帯、そして「復興ニュース」をお配りしているところまで送付をさせていただいて、そして返却をしていただくという形にしましたので、私とすれば半分くらいは、過半数は皆さん出していただけるのではないかなというふうには思っていたのですが、ちょっと思ったよりも数値が少なかったかなと思っております。

【中井委員長】これは、でも一般的なアンケートに比べれば、結構回収率は高いのではな

いかなというふうに私は思いますけれども。普通に市がやったやつは、もう少し低いですね、普通。ですから、やはり結構皆さん関心を持たれて回答されたのかなと思います。

ほかはいかがでございますか。

はい、どうぞ。

【菅野秀一郎委員】商工会青年部の菅野です。市役所の位置、入れるか入れないかでいったら、私はあれに入れたほうがいいと思うのですけれども、将来的なことをやっばりどうしても、まだ40手前なので考えてしまうのですけれども、どこかの合併を考えれば横田町のほうがいいのかなとか考えたりいろいろしたのですが、あくまでも私個人の考えなのですが、私は弟を市役所で亡くしていますし、おばも市民会館で亡くしています。ですが、もし高台は安心だ、安心だというなら、俺は安心からは慢心しか生まれませんと思います。絶対にどこが安全だというところは一切ないのです。そういうことを考えると、海に近いところに住んでいる我々は、海と仲よく暮らしていかなくてははいけないのです。だから、津波は来るものだという頭で、どうやって逃げるのか、どうやって生き延びていくのかを考えなくてははいけないということを考えると、高台に市役所をつくったから、俺らは大丈夫だなんて考えは絶対許されませんと思います。なので、市街地とか高台とか云々ではなくて、やっぱりまず利便性と発展性を考えなくてははいけないことです。それは、本当に陸前高田市にこれから住まう、私もかさ上げ地にもう一回戻って商売して、この町で勝負をしていこうと思っていますから、ぜひ死に票がどうしても、アンケートはアンケートなので、死に票ではないでしょうけれども、ふえるかもしれないけれども、本当に市長の言うとおりに、市長に私もお任せしますし、ただ私は家族をそこで亡くした人間としてですが、ぜひ都市計画というか、そちらの方向で考えていただきたいなと思います。

以上です。

【中井委員長】ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、委員の皆さんからも現位置といいますか、高台のほうがいい、それから市街地のかさ上げ地、両方のご意見頂戴いたしました。建設はまだまだ先のことだということでございます。恐らくこの庁舎が10年使えるということは、復興計画もかなり終わりのほうで恐らく市役所の建設ということになるのかなと思います。そのころには、いろいろな多分新しい技術ですとか、そういうものも発展をしているやに思います。

この推進委員会、やはりもともとのアンケートのように、推進委員会の中でも意見は1つではなくて、やはり2つに分かれているということだと思います。したがって、委員会としてどちらかの結論を出すとかということではございませんので、それを市のほうで受けとめていただいて、検討材料としていただければと思います。

市民アンケート、私ちょっとコメントいたしましたけれども、回収率はこれぐらいあれば結構高いかなとは思いますが、市民の方、それから市役所の方のそれぞれの調査結果を、こういう形で調査をされたので、やはりそれを尊重されて決められるのが大事かなということを考えております。

ありがとうございました。それでは、本日の議論については、これぐらいということにさせていただければと思います。

それでは、ここで市長から所感などございましたらお願いをしたいと思います。  
【戸羽市長】皆さん、長時間にわたりまして、さまざまなお意見を寄せていただきまして、ありがとうございました。

ただいまの市役所の位置につきましては、26日に庁議をさせていただきたいというふうに思いますが、高台ということで、この現市役所の位置をお示したわけですが、議会からはこの位置が最適という意味ではないでしょうというようなご指摘もいただいております。したがって、まだ方向性が出ているわけではありませんが、例えば区画整理地以外、浸水区域以外というようなことになっても、ここがベストなのかと。先ほどご意見が出ているように、商店街の皆様方、商工会の皆様方との連携というのがとれる場所がほかにはないのだろうか、いろいろ検討は必要だろうというふうに思っておりますので、もし区画整理地以外ということになったとすれば、少し市民の皆様方と時間をかけてご議論をいただきたいというふうに思っているところでございます。

それから、雇用の問題もご指摘をいただきました。現実問題とすると、今市街地が使えない状況の中ではありますが、私どもは今年度からまちづくりの戦略室をつくりました。実際には、さまざまな企業の皆様方とお話をする場面もあるわけですが、土地が使えるところがないということがひとつあります。そして、何よりも、今、地元の企業に人が集まらないという現象があって、非常にどこの企業も大変困っているわけでありまして、そこに企業を持ってくるということは非常に、企業を呼んできて、そしてそこに人が集まらないというような現象も考えられるわけでございますので、私とすれば地域の特に若い人たちがどういう職種を望まれるのか、どういう職種だったら自分たちが頑張れるのかということを開かせていただく中であって、企業誘致であり、あるいは事を起こすほうの、会社を起こすほうの起業というものを行政が応援をしていくという形も模索をしていかなければいけないのではないかなというふうに思っています。

いずれ今日皆さんにお示しをしたのは、中井先生がおっしゃっておりますように、ハードの整備の部分がどうしても多いわけでございます。また、ハードの部分でない計画というのはなかなか立てられないわけですが、ぜひソフトの部分、産業も含めて、あるいは観光なども含めて、ここは市民の皆様方のご議論をさせていただきたいというふうに思っていて、今まちづくりの市民会議みたいなものを立ち上げようということで、まちづくり戦略室のほうで動いているところでございます。その際には、市民の皆様方にもメンバーになっていただいて、それ

ぞれ思っておられること、陸前高田市のいいところ、悪いところ、あるいは売りになるところ、そういったところのご指摘などもいただきながら、本当に未来に向けて夢が持てるような復興にしていかなければいけないというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

【中井委員長】 どうもありがとうございました。

それでは、本日はこれをもって終了ということにさせていただければと思ひます。

ここで、進行を事務局にお返しいたします。

## 8 その他

【事務局】 委員の皆様、多くのご意見、ご議論ありがとうございました。

次第8のその他ですが、事務局から、今後の推進委員会の開催につきまして、ご連絡をいたします。

委員会の開催は、復興期間それぞれの年度当初のこの時期を基本といたしまして、復興計画事業の進捗状況を踏まえながら開催してまいりたいと考えております。

また、事業の進捗状況等を随時お知らせしております「復興ニュース陸前高田」等につきましても、今後は委員の皆様にもお送りさせていただきたいと思ひているところでございます。

事務局からは、以上です。

## 9 閉会

【蒲生復興対策局長】 それでは、以上をもちまして、本日の委員会を閉会とさせていただきます。本日は大変ご苦労さまでございました。